

みなさま

平和

教会の庭のさくらは満開です。公開の礼拝（公禱）の休止、集まりの自粛という、苦渋の選択にはじまった3月。その最後の週そして4月のはじまりの週をわたしたちは迎えようとしています。実生活の上でも、そして物理的な困難ばかりでなく、精神的にも大きな負担を感じながらの生活を過ごしてきました。そして、今しばらくはこの感染症を意識しながら過ごす日々が続くそうです。どうぞ引き続き、祈りと信仰生活のうちに、それぞれが今、それぞれの場で、命を生きあう分かちあいのために祈り、またできることを思い巡らしてゆきたいと思います。

3月25日に高橋宏幸東京教区主教から、「3月30日以降の礼拝（公禱）について休止継続の通達」が発表されました。これを受けて、聖アンデレ教会を含め、東京教区のすべての教会・礼拝堂での公禱（公開で行われる礼拝）が4月以降も休止され、さまざまな集まりも行われなくなります。

主教座聖堂のホームページ <http://www.anglicanecathedral.tokyo/> では、聖週の礼拝や4月の主日礼拝などの画像や資料が公開されますので、教会に集まることができないこのとき、ご活用ください。

広くお声かけをして多くの人びととともに集うことを計画していた聖週やイースターの礼拝や祝会なども、今年は断念せざるを得ません。でもこれは、イースターがやってこないという意味ではありません。まして世界の救い主キリストの復活はないということの意味しているではありません。

「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました。…キリストによってすべての人が生かされることになるのです。」（コリントの信徒への手紙 I 15:20-22）という事実をわたしたち教会は、集められているときも散らされているときも、そして迫害の中にあって閉じ込められているような時代にも信じ、伝え、キリストへの信頼を保ち続けてきたのです。

いずれわたしたちの礼拝は再開されます。その日、わたしたちは悔い改めと感謝、悲しみを乗り越えた喜びをもって、復活のろうそくに火を灯し、洗礼による命の約束を心に覚えて、感謝と賛美の祭りを神さまのみ前にささげます。

「主に望みをおく人は新たな力を得　わしのように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」　イザヤ書 40:31

主とともに行きましょう。主のみ名によって　アーメン

2020年3月27日

牧師　司祭フランシス下条裕章

祈りのうちに

感染症のため困難なうちにある人びとのため祈りましょう。また医療関係者、逝去者と悲しみの中にある人びとを覚えてお祈りください。

信徒の身近に感染が確認された方がいらっしゃいましたら牧師までお知らせください。（牧師）